

令和5年度 倉敷市真備地区復興計画推進委員会 議事概要

1. 会議名

令和5年度 倉敷市真備地区復興計画推進委員会

2. 開催日時

令和5年10月13日(金)14時00分～16時00分

3. 開催場所

真備支所 1階101会議室

4. 出席者

(1)委員(17名)

高槻素文委員、野田俊明委員、加藤良子委員、神崎均委員、水川誠委員、黒瀬正典委員、木口卓士委員、徳田智恵子委員、仲井進委員、小田祐三委員、平松頼雄委員、中山正明委員、浅原志津子委員、三村聡委員(委員長)、加藤孝明委員、中島光浩委員、北畠克彦委員(欠席者:中山悍慈委員、岩田英明委員、小野峯子委員、三宅隆司委員、橋本成仁委員)

(2)その他

オブザーバー

国土交通省中国地方整備局 高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所 濱田事務所長

国土交通省中国地方整備局建政部都市住宅整備課 矢吹課長

岡山県備中県民局 廣金建設部長

事務局(15名)

5. 傍聴者

0名

6. 報道機関

4社

7. 議事次第

1 開会

2 市長挨拶

3 委員紹介

4 議題

- (1)真備地区の復旧・復興に向けた取組状況について
- (2)真備地区における地域の活動について
- (3)真備地区復興懇談会の開催結果について

5 閉会

8. 配布資料

次第、委員名簿、配席表

資料1 真備地区の復旧・復興に向けた取組状況について

資料2 真備地区における地域の活動について

資料3 真備地区復興懇談会の開催結果について

参考資料 倉敷市真備地区復興計画推進委員会条例

9. 議事概要

【真備地区まちづくり推進協議会からの主なご意見】

- 今年で75回目の弾琴祭を開催し、非常にたくさんの方々に参加していただき盛大に開催することができた。厳粛な式典と賑やかなイベントを開催し、式典には安部先生(歴史小説家: 安部龍太郎氏)にも参加していただいた。安部先生からは、子ども達も式典に参加し、献茶や献花をするなど、地元の小学校で続けてきたことは良いことであり、これからも続けてほしいというお話があった
- 地域で防災セミナーを開催しており、今回で4回目になる。去年は90名の方が参加しており、今後も継続してやっていきたいと思う
- 地元の小学校で地域の夏祭りを開催し、ステージ、花火などを多くの皆様に楽しんでいただいた。防災減災の取組としては、第二回目の防災訓練を実施した。また、夏休みの社会見学として子供たちを対象に高田織物・科学センターを見学した。今後、地区の防犯防災大会として、防災に関する講演会や炊き出し訓練等を行う予定
- まちづくりの活動は、水害前の状態にほぼ戻りつつあるという状況。例えば、にぎわい創出の取組みとして、クリスマスコンサートを開催したほか、市長にも出席していただいた竹&ふれあいフェスタでは約2,000人方が参加した
- 防災・減災の取組として、地域連携防災訓練を5月に小田川の河川敷で実施した。また、小型建設機械をジャパンプラットフォーム ピースボートの災害支援センターから贈呈を受け、河川整備あるいは災害発生時における早急な復旧作業などに活用できるよう取り組んでいる。現在は、地元のボランティアを募集して、運転資格の取得を推奨し、その運転と技術力アップに向けて実地練習を行っている。現在、資格を持たれている方が70名ほどおり、今後増えていくのではないかなと思う

- 当地区においても、順次、発災前と同じ行事を行っている。発災前から毎年小学生とPTAで登っていた天狗山に5年ぶりに登り、自分たちの町である地区を山の上から見た
- 夏祭りを今年も盛大に小学校のグラウンドで行い、参加者は約900人だった。今年初めて災害復興の意味も含めて、5年目の節目でもあり、神楽を披露させていただいて、子どもからお年寄りまで喜んでいただいた。地区社協の皆様、老人クラブや環境衛生協議会の皆様から福の種の協賛金をいただいて、たくさん投げて喜んで帰ってもらった。少しずつこういう活動を続けて地域の皆さんの絆づくりに貢献したいと思っている
- 当地区では、毎年、黄色いタスキ大作戦を実施しており、それに合わせて防災フェスというものをしている。町内会の中で黄色いタスキを掲げてくれるパーセンテージが75.2%、町内会がないアパートや町内会が解散した、または元々ないという所は30.9%だった。こういう数字を見ると、町内会の大切さ、小さい単位での繋がりが大切ということが分かる。当地区は地区防災計画をまだ策定できていないが、来年には完成させ、地区の全員に配布したいと思っている
- 当地区では、高梁川と小田川の現合流点がこれから先は見えなくため、現在の状況を見に行く健康ウォーキングを実施し、当日は高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所の方が現地で説明をしてくれた。また、男性料理教室も自分たちで全部やろうということで男性だけで年2回料理教室をやっている。今年はやっと盆踊りが開催できて、多くの人が集まった。また、旧暦の七夕祭りを何年もやっており、子供たちが段々少なくなっているが、夜空を見て楽しんでいる。当地区は高齢化が最も進んだ地域で、少ない住民だがとにかく「明るく元気に」をモットーにこれからもやっていきたい
- 親子体験学習(ポーセラーツ(絵付け)教室)を行った。当地区には学校がなく、子供の数も小学生は20名足らずで少ないが、多くの家族が参加して楽しくお皿などに絵付けをした。ふれあいのタペは、これまでコロナの影響で中止していたが、今年はたくさんの方が参加してくれた。水害前の人数には戻っておらず、少子高齢化が進んでいるが、高齢の人の参加が少なかったように思う。また、歩け歩け大会ということで、3kmのコースと5kmのコースの2コースに分かれて歩き、小さな子供からおじいちゃんおばあちゃんまで約30人、3世代が参加した
- 当地区でもコロナが少し落ち着いたということで、例年通り行事を行っている。昨年7月に小学校の創立150周年を迎えたが、駐車場の整備工事があったため、記念式典を1年先延ばしして計画している。これまで、小学校の西隣にある菖蒲園という公園で祭りを行っていたが、昨年からわくわく祭りという行事を行っており、田んぼでは、水害の後、子どもたちに農作業の体験をということで、耕作放棄地を市の方で整備して頂いて、小学校5年生の農業体験をしている。また、これまで夏祭りはコロナで出来なかったが今年は開催した。水害を受けた後、すぐに阿波踊りが支援に来てくれたので、その阿波踊りをもう一度復活しようということで、練習を重ねて夏祭りの中で阿波踊りも皆で楽しんだ。10月には秋祭りも開催し、前日には小学校の子ども達が神輿を担いで地域を歩いた。今年は多くの方が集まり、宝くじ助成金(制度)

で修繕できた千歳楽を巡行して地域内を元気に歩いた。

- 防災・復興ということで、当地区を災害に強いまちにするという冊子として、これまで第1号「逃げる」を作り、第2号「生きる」を作成した。そして、今年度中に「つたえる」という冊子を編集しようということで準備をしている。この3冊をもって、平成30年の水害の記録を残したいということで進めている
- 1点目は、ハードの取組だけではなくて、分野横断的に行政の縦割りを越えてかなり総合的にきちんとした取組が進められていると改めて感じた。中でもハードに関しては、5年目を越えて進捗率がかなり高くなってきている。ハード対策はやはり環境が変わる。その環境が変わったことによって、そこで暮らす人々の中において、環境と暮らしの関係性を考えるものすごく良いもの、ある意味教材みたいなものができて来ている感じがした
- ソフトの取組にも関連するが、水害を経験して、水害後の復興でこうやって環境が変わったという、何かこの自立というのは、今後のこの地域の防災文化というか、地域の文化というか、そういうのを育てていくための、すごくいい教材になる気がした。だからそういう意味では復興でこういうものができたということを、代々伝わるように、可視化というか見える化をしておくことがとても大事なだと、出来上がりがつつあるものを見て感じた
- それから2点目は、各地区の活動を昨年に続き拝見させていただいて、非常に活発な活動だと改めて感じた。以前からやっていたものを継続しているというものに加えて、色んな創意工夫をして、新たな動きが見えていて、大変うれしく感じた。そういう中で、市が示した最初の復興計画を作った時の、S字カーブがあって、5年目になると、水平にこう近づいてくるが、この各地区の活動とかソフトに関しては、S字カーブで水平に近づいて行くのではなくて、5年目、6年目、7年目に向けて、そのまま右肩上がりのラインで進んで行くのではないかという予感がした。災害を経験して戻るだけじゃなくて、もっともっとう良くなるんじゃないかという期待感を持つことができた
- そういう中で色々活発に動いているものの、それぞれの地区で、悩みとか課題があるんじゃないかという気がする。そういう部分もこういう会議の場で共有できると良いと思う
- 皆様の取組をグッとこのまま行こうという、元気をいただくようなコメントをいただいた。一方で、また更にそこから見えてきた課題、これも時間が許す限り議論をしていきたいと思う
- それでは、真備地区の復興計画、今年度は計画としては最終年度になるが、来年度以降のさらなる発展に向けて、各諸団体の取組や抱負等についてコメントをいただきながら、これから先は議論を個別に深めていきたいと思う

【公共的団体などからの主なご意見】

- 真備・船穂商工会は、災害後5年目を迎えるにあたって、小規模事業者或いは中小企業者の立場で、その復興状況などの報告を少しさせていただく
- 商工会の会員は約500事業者だが、被災後は、グループ補助金などの公的支援などを活用して、約9割の事業者が事業を再開した。しかしその後は、コロナの影響や今年から始ま

るゼロゼロ融資の返済などにより、この5年間で真備地区の事業者の約1割が廃業・倒産するなど、厳しい状況となっている

- その一方で、現在は、真備地区創業支援補助金を活用するなどした新規事業者の企業が廃業・倒産した事業者数を上回るペースで増えてきており(新規創業者約40社のうち、32社が補助金活用)、この点は大変喜ばしく思っている
- 今年は商工まつりも4年ぶりに行われ、3,000人近い方にお越しいただいた。また、まびふれあい公園についても、商工会としては、どんどん活用させていただければと思っている
- 復興の時には、各小学校や色んなところで、炊き出しのお手伝いをさせていただいた。今後は、竹のまちフェアのお手伝いや、市の雛めぐりの開催など、皆さんが元気が出るイベントのお手伝いをさせていただきたいと思う
- 現在は、「進めよう地域計画」をスローガンとしている。地域計画とは、新たに10年後に目指す地域の農地利用を示した目標値、これを皆で作成しましょうということ。目標地図を達成するようなことを、地域計画としてこれからやっていきたいと思っている。農業の方は今、就農者の高齢化が進み、後継者が段々少なくなってきた、荒れ地というか遊休農地、耕作放棄のような所がどんどん増えている。そういうのを、少しでも減らしていくということで、これから10年先を見据えて、やっていこうと思っている
- 倉敷市PTA連合会真備ブロックというのは、真備にある幼稚園、小学校、中学校のPTA会長の代表からなっている団体。保護者からは、復興も完成に近づきつつあるため、学校経由でもいいので、治水工事やまびふれあい公園の見学会等はないのかという質問が来ている。まびふれあい公園の完成時には保護者や子供向けに現地見学会をぜひ開いてほしい
- 私たち保護者は、自分たちの子供が大きくなった時に、また真備に住みたいと思ってもらえるような環境づくりを考えている。その一つとして、自分たちの地域のことをもっと知ろうということで、まだまだ、知らない歴史について、地区で色んな探検をすることを企画しているが、真備地区全体の企画は費用面もあって難しいところがある。来週には、玉島でシティロゲイニングといって、制限時間の中で、各名所を巡って、その制限時間内に多くのポイントを稼いだ人たちが、勝利という大会がある。去年は水島でやって、今年は玉島でやるので、来年はぜひ真備で企画していただけたら、PTAとしてはバックアップさせていただくのでご協力いただきたい
- 復興懇談会のご意見の中に色々な質問があるが、これは懇談会の中で答えは出されたのか。まだ答えを出していないのであれば、今後の予定を教えていただきたい

【市からの主な発言】

- まびふれあい公園が完成した時には見学会をしたいと思う。子ども用の遊具などもあるので、どういう形が良いか教育委員会とも相談したいと思う。商工会にも、まびふれあい公園のところをしっかりと使っていただける意向があるということなので、見学会の内容は今後検討したい
- 懇談会の質問で多かったのは、最終年度ということで、工事の完成時期などが多かったと思

う。例えば、小田川堤防の拡幅工事で未施行の樋門の所はどうなるのかという質問については、国の方から今年度予定箇所は年度中にできると回答し、笠井堰の可動化の計画についての質問は、今、国が色々な検討をしてくれているとか、そういった具体的な回答をしている。シティロゲイニングの今後については、真備でも機会を設けたいと思う

- 復興懇談会の質疑応答については、今後、広報誌の来月11月号の方でご案内し、QRコードとかURLで市(災害復興推進室)のホームページでご覧いただけるように取りまとめている

【公共的団体などからの主なご意見】

- 民生委員の協議会としては、特に避難行動要支援者の方への避難対策として、市が当時の反省を踏まえて相当要支援者の方を絞り込んでいる。一担当あたりで言えば、見守り対象の方を含めて、5、6人から10人程度になっているので、こういった方々の個別避難計画・マイタイムライン、これを施設、或いは、国交省の方にお手伝いいただきながら、一人一人作っていくということを取りかかっている
- 地区防災計画についても民生委員は積極的に関わりを持たせていただいているが、特に個別避難計画を作る時、どこへ逃げるのが真備の場合は問題になる。市の説明では避難場所を強化しているということだが、当時は水害対応の避難場所は、収容人数が1,060名程度だったと思う。そこへ多くの方が避難したら何が起きるかというのは一目瞭然。その後、市の方は相当努力をされたと思うが、これをクリアすることは難しいと思う。災害の種類にもよるが、これは真備だけの問題ではないので、市から、近隣の市町村・神社仏閣等に万が一の時は協力していただけるよう強力に要請をしていただきたい
- 緊急時や被災時の職員の行動マニュアルが当時もあったと思うが、職員の方が、規定にないので対応できないところもあった。その後、非常時に対応できるマニュアルを整備され、職員の訓練も徹底してきていると思うが、前の被災の時と同じ状況にならないように、ぜひよりしくお願いしたい

【委員長からのご意見】

- 避難行動要支援者の避難対策については、自治体や社協さんのお力も必要ですけど、やはり自助・共助でコミュニティで支え合って、数の問題もありますけど的確に避難してもらうことが地区防災の核になってくると思う。引き続き、皆様方が主役となって進めていただけるような流れがありがたいと思う

【市からの主な発言】

- 避難地・避難路の整備として、当時は高台にあった岡田小学校と二万小学校などしか逃げる場所がないという状況だったが、例えば、岡田小学校は、入り口が狭く駐車場も少なかったもので、その後のワークショップの中で話をして、進入路の拡幅と駐車場の増加をした。また、真備総合公園体育館の方は、土砂崩れの危険があるため当時は洪水時の指定緊急避難場

所になっていなかったが(運用を変更し)部分的に活用することになった。吉備路クリーンセンターの方も、総社市と協定を結んで同時に使えるようにしている

- 水害が起こりそうな時は、親戚や友人など真備地区外に避難できる方はしてほしい。どうしても逃げられない方は、その地区の高い建物である小学校の上の階を浸水時緊急避難場所として、0ヶ所から9ヶ所に増やしている。また今後は高い建物と避難協定もできればと思っているので、(避難場所等について)もっとしっかりPRをしていきたいと思っている
- 市内に3ヶ所作っている災害公営住宅も、屋上へ逃げられるようにするなど、色んな場所を作っているので、PRしたいと思う

【公共的団体などからの主なご意見】

- 身体障がい者の会は、障がいをもたれている方々が孤立しないように社会参加できるようにすることを目的につくられた協議会だが、会に新しく入られる方が少なく、皆さん高齢になり、社会参加が難しい状況になってきている。当時の水害の時には、携帯電話の番号も知らなかったため、旧住所にお手紙を出して、ほとんどの方から返事があり、連絡先や当時どのように逃げたか、現在の様子についても確認した
- 高齢化で段々と小さい会になり、現在、会には30人ほどしかいない。これから先、お世話をしてくださる方がいないので自然消滅しないか心配している
- 真備地区老人クラブ連合会は、会員が1,135名おり、定期的に活動している事業としては、グラウンドゴルフや体操を行っている。各支部が不定期で活動しているものは、映画鑑賞や料理教室で、作って食べる、ということなどをやっている。今年は、グラウンドゴルフの大会、ウォーキング、終活についての講演をいただいたところ約200名が集まった
- 今後、児島老連と合同の演芸大会をマービーふれあいセンターで開催する予定。災害の翌年に、児島老連が「真備を元気にする」ということで、児島老連の演芸大会の時に招待していただいたお返しとして今回は合同で開催する
- 色々なお話を聞かせていただき、本当に皆さんの取組は素晴らしいと思ったが、やはり高齢化についてはどの団体の方も言われており、ハード整備はとても進んでいる状況だが、その部分が少し気になる
- PTA会長さんからもありましたが、真備で育っている子供たちが大人になった時に、(一旦外に出て)「帰って来て真備でまた住みたい」と思ってもらえるように活動していることがとても素晴らしいと思った。今、頑張っておられる皆さんがそういう気持ちを持っていたいて、10年後20年後には、色々な行事に参加してくれている子供たち、子育て世代の人たちが、またこの倉敷・真備へという思いになっていただくために、どうぞお元気で頑張っていたきたいと思う
- この協議会を通じて、それぞれの皆さんの取組が他の地区にも参考になり、またそれを自分のところに当てはめるなど、チームワークというか、それぞれの絆がまた他の地区にも繋がっていくのかなと、改めて感じた

- 皆さんの取組は、復興前から続いてきた事業と聞いているが、今はそれ以上に地域みんなが力を合わせて、温かい地域づくりを行っていただいていると感じている。本当にいろんな地区で、この動きを参考にして、他の地域にも伝えていきたいと思うので、これからもしっかりと頑張っていただきたいと思う。議会としても皆さんの取組にしっかり寄り添いながら、私たちもそれに向かって頑張っていきたいと思う
- 今住んでいる子供たちがまた帰って来たいと思うためには、安全なまちづくりをしていかないといけないと思うので、真備は安全だから帰っておいでというような地域にしたいと思う

【学識経験者からのご意見】

- それぞれの立場で課題認識を持ちつつ、前向きに取り組んでいることがよく分かり、すばらしいことだと感じた
- 改めて話を聞くと、こういう場が非常に重要だと改めて感じた。今後、継続的に復興する、これから「ポスト復興」というものに向けて取り組んでいくにあたり、それぞれの立場で、取組や悩みについてここで共有する機能がこの会議にはあると思う。こういった場を継続的に持つておくことが非常に重要だと思う
- 5・6・7年目に入るにつれて、「ポスト復興」というか「復興を超えたところ」を見据えて、みんなで真備を盛り上げていくことが、とても大事だと改めて感じた。これからは、少しモードも変えながら、前に進めていけると良いと思う

【市からの主な発言】

- 加藤先生も言われていましたが、9月の真備地区復興懇談会においても、来年度以降の懇談会の有無についてご質問があり、名前がどうなるかは分からないが、大事な会議なので、そういう機会を設けることができれば良いと思う。復興計画推進委員会についても、今年度はこの会が1回ということなので、今後のことをみんなで考える時期に来ていると思う。どういう形にするのか分からないが、「ポスト復興」の時期にも色んな意見をみんなで出し合い考える会が必要じゃないかと思う
- 復興については、各団体の皆さんが頑張っていて、県さんについても川辺橋や、昨年の有井橋も3ヶ月早く完成していただき大変助かった。国交省さんについては、10月29日に小田川合流点付替え事業の通水式もある
- 「安全・安心のまち」、それから、とにかく「住みよいまち」、「魅力を発信できるまち」に皆さんと一緒にしていくことが、この会の方向性と思っている

【委員長からのご意見】

- 今の方向でまた次の創造期が見えてきたような気がするが、今日いただいた貴重なご意見、かなり具体的にまだまだこれからクリアしなきゃいけないことも含めて、これは事務局の方で今後の方針も含めて、皆様にフィードバックしていただくということによろしいか

- それではその方向で、今後とも仕上げの段階に来ていると思うが、ますます皆さんの地域の活動を盛んに進めていただきながら、元気な真備を、不易流行といいたしうか、今まで築いてこられた過去からの知見、皆様の地域のパワー。神楽が復活したという話もありましたけど、そういった変わらぬものと、これから先の子ども達、孫の代にまでバトンを渡していけるような安心・安全なまちづくりをぜひ進めていただきたい。よろしくお願いします

会議録の内容に相違ないことを確認し、ここに署名します。

令和 5 年 12 月 8 日

委員長

三村 聡 

署名委員

高槻 素文 